

茅ヶ崎地区 防災“も”まちづくりシンポジウム 開催報告

茅ヶ崎地区まちぢから協議会では、令和4年度に行った「防災“も”まちづくりワークショップ」での取組や、ワークショップを契機に始まった活動について、地区にお住いの住民や事業者の皆さまと広く共有し、今後、地区で取り組む防災まちづくりについて話し合うため「防災“も”まちづくりシンポジウム」を開催しました。

第1部では、東京大学 加藤孝明教授の基調講演が行われるとともに、茅ヶ崎地区まちぢから協議会より、令和5年度の活動報告を行いました。

第2部では、住民や地区内で活動している事業者、企業等を交え、防災“も”まちづくり円卓会議を行い、今後のまちづくり活動について話し合いました。

<シンポジウム開催概要>

日 時：1月14日（日）13：30～16：30
場 所：茅ヶ崎市役所コミュニティホール
参加人数：40人
主 催：茅ヶ崎地区まちぢから協議会
協 力：茅ヶ崎市

【第1部】

- ◆基調講演「みんなで取り組む防災“も”まちづくり」
- ◆茅ヶ崎地区防災“も”まちづくり活動
令和5年度の活動報告

【第2部】

- ◆防災“も”まちづくり円卓会議
テーマ「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」

【第1部】



【第2部】



発行：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課
TEL：0467-81-7181

発行日：令和6年3月
FAX 0467-57-8377

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了後、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教、生産技術研究所准教授等を経て2019年4月より現職。

専門分野は、都市計画、まちづくり、地域安全システム学、災害シミュレーション技術、それを社会に結びつける「まちづくり支援技術」の開発、市民協働の防災まちづくりを実践する。

地震防災に加え、気候変動の時代に対応した大規模水害に備える街づくり、復興事前準備を研究テーマとする。

理論、技術開発の他、時代をふまえた地域づくりの新しいモデルづくりを自治体や地域社会と連携して実践する。



災害と防災～最近感じること

防災だけではなく、日ごろの活動と一緒に取り組むことにより、防災の推進力・持続性を高める！

- ・災害への備えを日常の活動に織り込む。
- ・地域にある他の課題と防災上の課題を併せて、総合的に考える。

◆能登半島地震で感じたこと

- ・能登半島地震では、半島という地形のためか、「孤立」というキーワードが取り上げられました。「孤立」しても「自立」していれば、なんの問題もありません。今回の震災で、いかに「自立」できる環境を事前に作っておけるのかというのが、地域にとって非常に重要な課題ではないかと感じました。
- ・日本では、ライフラインが止まった被災地で被災者は苦しい生活を送り、また、支援者も苦勞して被災地に物資を運ぶことが常識化しています。昔は疎開避難も行われていて、今回の震災でも2次避難が目されました。ライフラインが回復するまでの間、ライフラインが整った場所に避難するといった、これまでの「常識」にとらわれず、柔軟に考えることが重要だと感じました。

◆他の災害の教訓

- ・自然災害からの安全は行政が確保しなければならないという意識がありますが、災害時に公助の力は意外と小さい。公助だけに頼るのではなく自助、共助の力を高めることが大切です。
- ・過去の災害を踏まえると、避難所はキャパシティオーバーであり、避難に対して、自身や地域はどう対応するのか。リアリティをもった対策が必要です。

地域から始める「防災“も”まちづくり」のすすめ方

◆自助・共助・公助の目標：全員一丸となって災害を乗り越える

- ・地域の防災力を高めるには「防災“も”」の考えで仲間を増やし、地域が一丸となって災害を乗り越えるためのコミュニティづくりを目指すことが重要です。
- ・災害をリアルにイメージし、防災“も”まちづくりの活動を共有・推進することが大切です。

🔴 防災“も”まちづくりとは・・・

災害時の被害を最小限に抑えるには、地域住民、商業者、企業等、様々な人たちが互いに連携し、地域全体の災害対応力を高めておくことが大切です。そのためには、防災“だけ”を考えるのではなく、日ごろの活動を通じて、地域の中で、多くの顔見知りをつくること。住民と商業者、企業が繋がりを持つておくこと等が有効です。日ごろの活動が、結果として地域の防災力を高めることに繋がっている。このような活動を「防災“も”まちづくり」と位置づけています。

茅ヶ崎地区防災“も”まちづくり活動 令和5年度の活動報告

◆茅ヶ崎地区ワークショップの概要

令和4年度に、茅ヶ崎地区まちぢから協議会運営委員への声掛けを行い、自治会長、公募委員、自治会役員、民生・児童委員等をメンバーとして、ワークショップを3回開催しました。

各回とも約50人の方々にご参加いただきました。

◆ワークショップの内容

第1回ワークショップでは、加藤先生の基調講演があり、災害時をイメージするというテーマで意見交換を行うことができました。また、各自治会、団体の日常の活動内容や状況を共有することができました。

第2回ワークショップでは、まちあるきを実施し、まちの点検を行いました。また、商業者（イオン茅ヶ崎中央店）の防災活動についてお話を聞き、今後の連携について意見交換をすることができました。

第3回ワークショップでは、先の2回の結果を踏まえて、茅ヶ崎地区で取り組むべき取組内容をアクションプランとしてまとめ、「防災“も”まちづくりマップ」を作成しました。

◆ワークショップでの気づき

1つ目の気づきは、まちの特徴です。この地区には、公共施設、大規模店舗、商店街、企業、マンション、戸建て住宅など、様々な建物や機能が立地しています。そして、市の中心部にあり、災害時の機能が集中していることから、周辺地域が被災すると、この地区へ多くの人々が避難してくる可能性があります。

2つ目の気づきは、これまで実施してきたコミュニティ活動が、何らかの防災上の役割があったことです。例えば、自治会費の集金も、住民の状況確認につながっていたというような効果です。

3つ目の気づきは、課題が多いということです。高齢化に伴う担い手不足、若者の参加が少ないこと、自治会の活動拠点が少ないこと、戸建て住民とマンション住民の関係性、地域と商業者、企業との連携不足などが挙げられます。

◆キャッチフレーズ

ワークショップでは、茅ヶ崎地区を表すキャッチフレーズをグループごとに考えました。そのキャッチフレーズを組み合わせると、「人と人のふれあいや、人を育てながら多様な人々が連携して、楽しみながらまちづくりを進める」にまとまりました。これは、本日の円卓会議のテーマ「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」につながっています。



茅ヶ崎地区まちぢから協議会
副会長 越川 善雄 氏

ワークショップ（実施内容）

実施内容	
	テーマ：災害時をイメージし、日ごろの取組と工夫を共有する！ ① 基調講演 東京大学加藤孝明教授、「防災“も”まちづくり」講演 ② 災害時の被害想定 茅ヶ崎地区に特化した、災害時の状況や被害をイメージ ③ ワーク・発表 日常のコミュニティ活動と防災に関する効果等を共有
第1回	テーマ：日常のまちづくりと非日常の防災に活用できる資源を探そう！ ① まちあるき 防災の視点でまちあるきを行い、地域内の危険箇所、災害時に活用できそうな資源、災害後も残していきたいものを確認 ② 商業者との意見交換 商業者（イオン）との意見交換を実施 ③ ワーク・発表 まちあるきまとめ、商業者との連携、今後の取り組み内容を整理
第2回	テーマ：事前のできることをアイデアを整理しよう！ ① ワーク・発表 今後、進めていくべきアクションプランについて意見交換し、防災“も”まちづくりマップを作成
第3回	

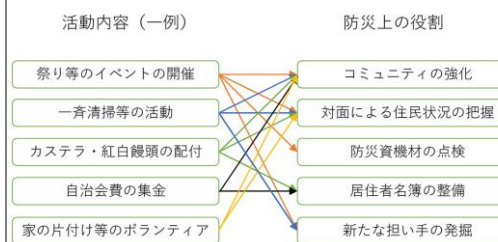
ワークショップでの気づき（1）

・茅ヶ崎地区は、市内でも特徴的な場所

茅ヶ崎地区の地理的特徴	茅ヶ崎地区の防災上の特徴
<ul style="list-style-type: none"> 大型コンクリート製建物（事業用）が多い 大規模マンションが多い 大規模小売店が複数ある 大規模事業者（企業）が複数ある 商店街がある 市の体育館など公共施設が多い 大規模病院が複数ある 地区の周辺部には戸建が多い 神社が複数ある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとにそれぞれ異なるリスクがあり、その程度も異なる 市内全域からみると比較的リスクは少ない 火災クラスター発生の場合には、市内全域から茅ヶ崎地区中心部に避難者が殺到する恐れがある（避難場所、トイレ） 駅が2つある。帰宅困難者への対応が必要 大規模小売店、大規模事業者は、市との協定により茅ヶ崎地区への被災対応可能性は不明

ワークショップでの気づき（2）

・これまでの地域の全ての活動は、防災上の重要な役割を持つ



ワークショップでの気づき（3）

我々には課題も多い

- ・高齢化等、活動の担い手の不足
- ・イベントへの若者の参加者が少ない
- ・各地域（自治会）での活動の拠点となる空間が少ない
- ・マンション居住者等の「新住民」との関係構築不足
- ・自治会加入者の減少、そもそも自治会を作らないマンション
- ・自治会間の連携が少ない
- ・商業者や企業との連携がほぼない
- ・防災意識が希薄な居住者層の存在

令和4年度 茅ヶ崎地区 防災“も”まちづくりワークショップ ※詳細は市 HP で

<https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1007927/1008018/1052896.html>



茅ヶ崎地区防災“も”まちづくり活動 令和5年度の活動報告

◆令和5年度の活動報告

ワークショップでとりまとめたアクションプランをもとに、茅ヶ崎地区では、令和5年度のまちづくり活動を始動しています。

基本的には、自治会や団体のこれまでの活動を継続し、その中で防災につなげていくというスタンスです。

19の自治会の単独での活動、まちぢから協議会が主体となる活動に加えて、複数の自治会が合同で進める活動が生まれつつあります。

また、自治会や地域団体の横断的な活動も期待されます。茅ヶ崎地区では、横断的な活動として、神社での活動を契機とした自治会の枠を超えたつながりが考えられます。

新たな動きとして、レクセルマンション自治会とAGCプライブリコ(株)茅ヶ崎工場の連携が始まりつつあります。

現段階では、話し合いを開始した段階であり、課題が多く確認されたので、今後、検討を進めていく予定となっています。

◆今後の方向性

①市の地域防災計画との連携

地域が主体となる防災“も”まちづくりの活動で対応すること、行政が主体となって進めることの双方があると思います。今後は、市の地域防災計画と連携して、進めていきたいと思っています。

②自治会間の助け合い

単独自治会の活動、自治会間の連携等を進めていくことが考えられますが、マンパワーが課題となります。活動内容が増えて、負荷がかかることは継続性の面から厳しいです。

既存事業の必要性、重要性を確認し、活動の効率化を進めるとともに、自治会間の助け合いにより、進めていくことが考えられます。

新たな担い手を集めるべく、会議体や広報の在り方も検討していきたいと思っています。

茅ヶ崎地区まちぢから協議会の構成

- 自治会 19 (うちマンション単独自治会は10)
- 地域団体 11
 - 茅ヶ崎地区社会福祉協議会
 - 茅ヶ崎地区民生委員児童委員協議会
 - 地域包括支援センター・福祉相談室 ゆず
 - ボランティアセンターちがさき
 - 梅田地区体育振興会
 - 梅田学区青少年育成推進協議会
 - 梅田学区子ども会連合会
 - 茅ヶ崎地区コミュニティセンター管理運営委員会
 - 茅ヶ崎地区老人クラブ連合会
 - 婦人会
 - 商店会
- 部会 1 (防災部会)
- 公募委員他 4

令和5年度のまちづくり活動報告(1)
～ 継続的活動 ～

【単独自治会(婦人会、老人会、子ども会、消防団活動を含む)事業】

【地区まちぢから協議会主催事業】

- ・地区一斉清掃
- ・地区防災訓練

【複数の自治会による合同活動】

- ・本村会、グランドハイツ+藤和茅ヶ崎ハイタウン

【地域横断的活動】

- ・茅ヶ崎地区社会福祉協議会活動(福祉祭り他)
- ・茅ヶ崎地区民生委員・児童委員協議会活動(見守り他)
- ・梅田地区体育振興会活動(体育祭、ソフトボール大会、ベタンク他)
- ・梅田学区青少年育成推進協議会活動
- ・梅田学区子ども会連合会活動
- ・ボランティアセンターちがさき活動
- ・茅ヶ崎地区老人会連合会活動

((神社活動))

令和5年度のまちづくり活動報告(2)
～ 令和5年度の新規活動 ～

- ・レクセルマンション自治会とAGCプライブリコ株式会社茅ヶ崎工場との連携への取組み開始(継続中)

- ・矢畑南自治会、藤和ハイタウン湘南茅ヶ崎自治会、パークスクエア湘南茅ヶ崎自治会での新年の合同イベント連携を模索したが、課題の多さ、課題解決に向けた自治会役員負担の大きさ、などにより、年度内実施は断念し、今後に向けた検討課題とした

今後の方向性の案

この地区の災害の特徴(避難者の殺到など)への対応は、市の防災基本計画に反映してもらおうが基本と考える。
我々の出来ることは、我々のコミュニティの繋がりをより強化していくこと

【活動の方向性】

- 自治会区域内での活動の継続
- 自治会区域を超える連携活動の強化
- 茅ヶ崎地区内で横断的活動を行っている団体の事業への支援強化
- 新しい連携(企業等)の拡充
- 既存事業の必要性、重要性の確認

【組織の方向性】

- 新たな担い手の発掘に向け、住民の働き方の変化、転入者の増大に合わせた会議体のあり方、広報の方法などの検討

防災“も”まちづくり円卓会議「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」

コーディネーター：加藤先生

パネリスト：城田禎行さん（茅ヶ崎地区まちぢから協議会会長）

パネリスト：越川善雄さん（茅ヶ崎地区まちぢから協議会副会長）

パネリスト：大久保仁晶さん（梅田小学校校長）

パネリスト：神谷昌裕さん（レクセルマンション茅ヶ崎自治会会長）

パネリスト：田村政実さん（ニューライフ自治会環境部長）

パネリスト：中島麻紀さん（茅ヶ崎地区民生委員児童委員協議会）

パネリスト：石川美紀さん（日本都市計画家協会 ファシリテーター）

パネリスト：下里隆史さん（茅ヶ崎元町商店会理事長）

パネリスト：津田眞利さん（茅ヶ崎ショッピングセンター商店会）

パネリスト：大塚勝之さん（AGCプライブリコ(株)茅ヶ崎工場工場長）

パネリスト：岡野谷知見さん（イオンリテール(株)茅ヶ崎中央店 人事総務課長）

パネリスト：本田弘巳さん（イオンリテール(株)茅ヶ崎中央店 CS 同友店販促課長）



◆防災“も”まちづくり円卓会議

円卓会議では、加藤先生と登壇者の皆さんが、「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」のテーマで、茅ヶ崎地区の防災“も”まちづくりについて意見交換をしました。

<加藤先生>

令和4年度のワークショップにおいて、茅ヶ崎地区には、素地、資質、資源が十分にあることがわかりました。みなさんがまとめた防災“も”まちづくりの方向性は理解できるし、共感もできる。

一方で、課題は山ほどあります。これらについて意見交換を行っていきます。

<大久保さん>

今回参加して、地域の方々が様々な活動をしていることがわかりました。公共施設、大規模店舗、商店街、企業などがある地区であり、梅田小学校は環境が良いところにあることが認識できました。

<下里さん>

元町商店会の理事長の一方で、歯科医をしていることもあり、防災には多様な立場で関わっています。東日本大震災の際に、歯科医は死者の身元確認を担当しましたが、とてもつらい活動です。再度、そのようなことにならないように災害への備えは重要です。

市は、都市計画に防災の視点を入れて対応し、住民は住んでいる地域のことを勉強して備えることが重要です。医療機関や薬局は、災害時に開業しているかを、旗を立てて分かり易くするようなことが有効ではないかと考えています。

<加藤先生>

例えば、市の救急車の台数を考えると、災害時にそれほど多くの人に対応することは不可能です。地域が医療機関や福祉施設等と普段から連携し、災害時に協力することを考えておくことが重要です。

ワクワク²×助け合い

- 茅ヶ崎地区は、素地・資質・そして資源は、十分になる。
 - 今後の防災【も】まちづくりの方向性は理解できるし、共有できる。
 - いざやるとなると、課題は多い。そりゃそうだ！
- 連携
-
- 市との連携が不可欠な課題があるので、市との連携は不可欠。
 - 多様な要素(凹凸のある要素)があるという特徴を活かす。
 - 今の時代を活かす(在宅勤務の増加, 転入者等)。

第2部

防災“も”まちづくり円卓会議「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」

<津田さん>

私は消防団に入っていますが、災害時に消防だけでは対応しきれないと思います。消防車に興味を持つ子どもが多いので、そのつながりで親も一緒に防災や消防活動に関わってもらおうと、いざというときに、その知識や経験が役に立つと思います。

子どもは、地域で生活しているので、子どもが地域のことを一番よく知っています。そういった子どもの情報・知識を、災害時には活かしていくことも考えられます。

<大久保さん>

小学生も高学年になると、体格も大きくなりますので、災害時に動ける人材かと思います。学校でも災害時の協力について考えていきたいです。

<大塚さん>

A G C プライブリコ (株) 茅ヶ崎工場は、1958年に本村で生産活動をはじめ、現在に至ります。第1部で、地域と企業の連携の話が出ていましたが、昨年の夏に、レクセルマンション茅ヶ崎自治会と防災について検討を始めました。今後、具体的に連携し、いざという時に動きが取れるよう話し合っていきたいです。

<岡野谷さん>

中越地震、中越沖地震のときには、新潟県に赴任しており、災害対応を経験しました。このような経験から、平時の訓練がとても重要だと、改めて認識しました。また、多くの人が消火器を使用したことがないことも知りました。今後も、企業として取り組めることを進めていきたいと思っています。

<加藤先生>

消火器の話がでましたが、一般の方でを使用した経験がない人が多いことを、みんなが知っておくべきです。その前提で、防災“も”まちづくりをどう進めるかについて考えていくことが重要です。

<本田さん>

イオン茅ヶ崎中央店で、テナント管理の仕事をしています。大晦日のテレビで能登半島のお寺のシーンが放送されていましたが、まさか、翌日に大地震が起きるとは。改めて、災害はいつ何が起こるかわからないと実感しました。

当社は市と災害における応急生活物資供給等の協力に関する協定を結んでいます。また、協定外の事例ですが、令和元年の台風19号の時には、避難のため、夜間に立体駐車場を市民へ開放しました。協力できることは協力していきたいと思っています。

<加藤先生>

次に台風等が来るときには、車が殺到して先着になってしまうかもしれません。葛飾区では要支援者を乗せた車を優先するというルールをつくっています。茅ヶ崎市でも事前にルールを決めておくといいですね。

<中島さん>

地域は、企業とwinwinの関係をつくっていく必要があると思います。企業に協力を求めるだけでなく、地域からも協力できることを探すことが必要です。人と人のつながりをつくり対応できることを考えていきたいです。民生委員の立場としては、高齢者の状況を把握することが重要になりますが、どうしてもマンション居住者の情報が手薄になります。今後は、改善していきたいと思っています。自分の担当している要支援者は80歳以上の方で70人いますが、災害時に全ての方のお手伝いをするのは困難です。地域全体の課題として、対策を考えていきたいです。



防災“も”まちづくり円卓会議「ワク²×助け合い→茅ヶ崎地区まちづくり」

<田村さん>

顔がわかる関係性をつくることはとても難しいことです。5年前に引っ越しをしてきて、地域コミュニティの役割をいただき溶け込んでいますが、昔から住んでいる方々との関係づくりが難しいです。

コミュニティ活動に積極的に参加できる場をつくっていくことが重要です。

<神谷さん>

レクセルマンション茅ヶ崎自治会とAGCプライブリコ(株)茅ヶ崎工場は、災害時の助け合いについて話し合いました。

非常時にちゃんと動けるようにすること、JR東海道線の南側は延焼火災の危険性が高く、アンダーパスを通過して、多くの人々が避難してくる可能性があるため、その対策を一緒に考え始めています。

また、自治会加入率の低下が課題だと思っており、良いアイデアがあれば教えてほしいと思っています。

<越川さん>

令和4年度の防災“も”まちづくりワークショップでは、自分たちのコミュニティの力を再確認することができました。やりたいことは沢山ありますが、負担が大きいです。参加する人にメリットが見いだせれば、負担感は小さくなります。具体的には、防災への取組は大きなメリットになると思いますので、防災を基軸にコミュニティ活動を活性化することが有効であると考えます。

<城田さん>

今回の円卓会議を企画するなかで、新たに様々な方とお話しすることができました。若者の参加が必要ですが、今と昔では様子が異なり、例えば、浜降祭で若者は神輿を担ぐのではなく、法被を着てファッションを楽しむ人が増えてきたそうです。これまでとは違ったアプローチで、若者に加わってもらうことを考えていきたいです。

<石川さん>

私はワークショップでファシリテーターを務めましたが、今回、ワークショップを契機に、地域のつながりが深まっていることが確認できうれしく思いました。これまで活動を継続することに加えて、新たな活動に取り組むのは地域の方々の負担が大きくなるのが想定されます。アイデアを集めて、これまでの活動を工夫しながら進めていくことが有効かと思えます。

<加藤先生>

防災活動は、地域だけで対応するのではなく、商業者や企業、あるいは行政等、様々な人が連携して進めていく必要があります。ただし、必ずしも行政が正解をもっているのではないことを認識し、一緒に考えていくことが必要です

◆総括

本日の意見を踏まえて、地域の皆さまと話し合い、相談する必要があると思いました。過剰な負担のもとで進めるのではなく、今回のテーマにある「ワクワク」という視点を重視して、楽しみながら進めていければと思います。

今回の経験を活かして、これからも防災“も”まちづくりに取り組んでいきたいと考えます。



茅ヶ崎地区まちぢから協議会
副会長 越川 善雄 氏

アンケート結果

シンポジウムの際に、ご記入いただきましたご感想の一部をご紹介します。
貴重なご意見をありがとうございました。

今後、地域で取組たい内容について

- ・ 個別訪問など、人とのつながりを作ることと、その際に防災について話をするようにしたい。
- ・ 地域とのつながりが薄い若い人が参加できる活動を考えていきたい。
- ・ 楽しみながら参加できるような活動を創設していきたい。
- ・ 防災リーダーによる防災会に女性に加わってもらえるように、防災クッキング教室などを企画したい。
- ・ 夏祭りなど子どもたちから大人までが楽しくすごせるイベントを企画していただきたい。
- ・ 自治会の防災訓練を続けたい。
- ・ 地元消防団との訓練を続けたい。
- ・ 防災訓練において消火器の取扱方法などの体験を行い、多くの方が使えるように工夫していきたい。
- ・ 経験の積み重ねや、人との関わりを大切に、在宅避難に焦点を当てて、できることを楽しく「防活」を伝えてきたい。

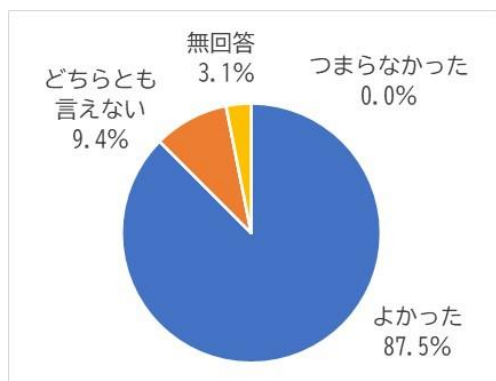
シンポジウムの印象や、言い残したこと、質問など

- ・ 加藤先生が上手に答えてくださり、分かりやすく、そして体感できてよかった。
- ・ 加藤先生が言われた「被災地の方々を安全な地域に避難させる」に同感である。
- ・ 能登半島地震について、新聞等での伝わらなかった内容を知ることができ、いろいろな情報を知ることができた。
- ・ 阪神淡路、東日本、熊本、能登半島と、いずれも冬場に発生している。地域に身近な場所に、特に要支援者が避難できる屋根、壁のある集会所（一時避難場所）が必要である。
- ・ 災害時持ち出し用品に関しては、色んなところから、色んな種類のものが紹介されている。それらを咀嚼して、家庭でも独自に工夫したものがあったら、市広報にでも掲載してほしい。
- ・ 自治会内で問題意識を共有し、当事者意識を持つことが重要。
- ・ マンション居住者、戸建て住宅居住者、企業等の多様な主体が、この機会に災害に対しての防災意識を共有することが大切である。
- ・ 中高生に学校でホース格納箱の使用方法を教えたらどうか。
- ・ これからも、このような学習会に参加させていただき、「今」を知って学んで、地域に伝えたいし、自分も災害時に強い精神力、身体を作っておくことから始める必要があると思った。
- ・ 防災”も”まちづくりというテーマであったが、同様に、介護”も”まちづくりは、大きな問題だと思う。

アンケート結果

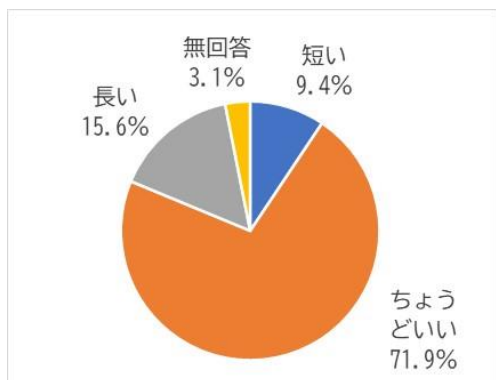
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

①シンポジウムに参加したご感想は…？



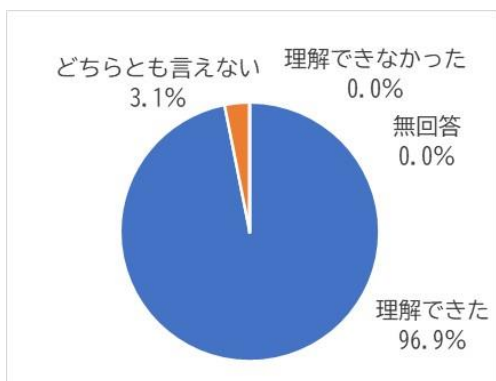
選択肢	回答数	割合 (%)
よかった	28	87.5
どちらとも言えない	3	9.4
つまらなかった	0	0.0
無回答	1	3.1
合計	32	100.0

②シンポジウムの時間は…？



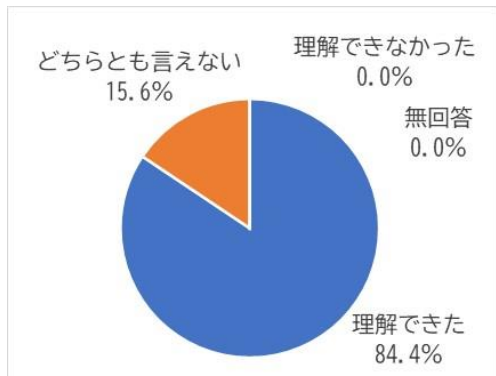
選択肢	回答数	割合 (%)
短い	3	9.4
ちょうどいい	23	71.9
長い	5	15.6
無回答	1	3.1
合計	32	100.0

③基調講演の内容は…？



選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	31	96.9
どちらとも言えない	1	3.1
理解できなかった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	32	100.0

④茅ヶ崎地区防災“も”まちづくり活動（令和5年度の活動報告）の内容は…？

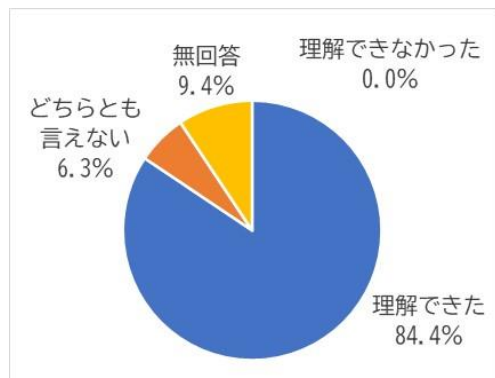


選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	27	84.4
どちらとも言えない	5	15.6
理解できなかった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	32	100.0

アンケート結果

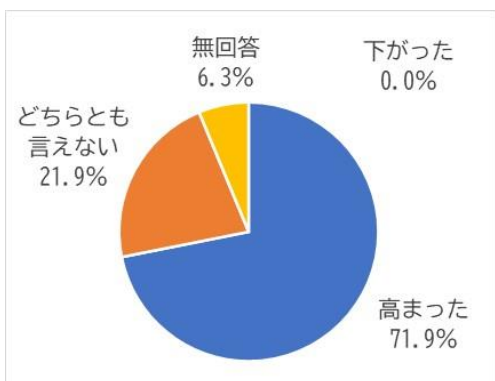
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

⑤円卓会議の内容は...？



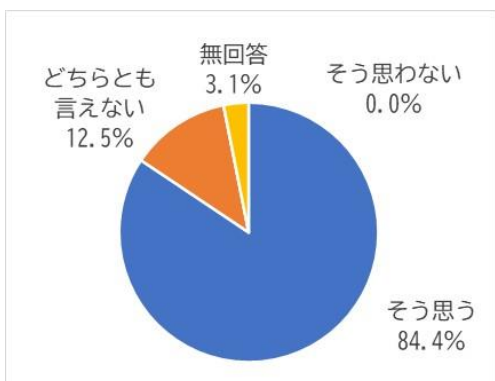
選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	27	84.4
どちらとも言えない	2	6.3
理解できなかった	0	0.0
無回答	3	9.4
合計	32	100.0

⑥このシンポジウムに参加したことで防災の取組に対する意欲は...？



選択肢	回答数	割合 (%)
高まった	23	71.9
どちらとも言えない	7	21.9
下がった	0	0.0
無回答	2	6.3
合計	32	100.0

⑦今後も防災“も”まちづくりについて学校や地域で話していきたい...？



選択肢	回答数	割合 (%)
そう思う	27	84.4
どちらとも言えない	4	12.5
そう思わない	0	0.0
無回答	1	3.1
合計	32	100.0